



公益社団法人  
日本美術教育連合  
ニュース

No. 136  
2012. 9

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-30-14 文京ビル 206号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 宮坂元裕

ニュース担当 北川智久

E-Mail: kitagawa@elementary-s.tsukuba.ac.jp

## 子どもにとってかけがえのない美術を通じた教育

公益社団法人 日本美術教育連合理事・研究局長 山口喜雄

既報のように2012年11月4日12時に東京国立近代美術館講堂にて、会員数17550人を誇る世界最大規模の全米美術教育学会 (National Art Education Association, 略称 NAEA) 会長であるロバート・セイボル博士 (F. Robert Sabol, Ph. D.) の来日講演会を予定しています。

ところで、2008年9月のリーマン・ショックによる世界的不況で閉塞感が強まり、目先の効率性を優先し、人間にとって本質的に重要でも地味なことが軽視されやすい近年です。2002年行革以来、「事業仕分け」の流れで芸術教育削減論が一部マスコミの論調に見え隠れしています。そういうところ、1970年代に芸術教育不要論が起り、芸術の街ニューヨーク市で図画工作専科教員99%、中・高校の美術教員を多数削減をするに至り、「学校が灰色になった」という証言とその後の動きを想起してほしい。冷戦下の1970年代に米国は大不況でした。莫大な軍事費の優先、教育予算の大幅削減、緊急を要しない教育内容を切り捨てました。当時、1957年のソ連による人類初の人工衛星打上げ成功というスプートニク・ショックの記憶が新しく、科学教育振興を重視し、「お遊び」「お飾り」と思われがちな芸術教育不要論が起こったわけです。

「予算カットの直撃は致命的でしたね。(中略)特に低学年の児童はかわいそうですね。子どもたちは絵や音楽を通して、よその国のことを学ぶのですから、これはお手あげですよ」との同市小学校教員の発言が記録されています。芸術団体の集合体が教育長に要望書を出しても改善されませんでした。日本では「不要」と見なされた制度の復活はほぼ皆無です。しかし、米国は違いました。1977年には若き実業家ロックフェラー4世 (J.D.J. Rockefeller, IV, 1937~) を座長に芸術・教育・マスコミ・勤労者・芸術愛好者・政府など広い分野から、芸術教育者を含めずに構成された審議会が、後記の芸術教育の調査研究報告書 (Coming to Our Senses) を提出しました。

「(前略) 審議会は、読み書き、算数などの基礎教育を支持していないわけではないが、正しく指導された芸術は、個人の発達にとっては正に基礎となるものであるとしている。なぜならば、芸術は他のどんな科目よりも、子どもたちの諸感覚を目覚めさせるのに役立つからであり、目覚めた諸感覚は学習のパイプ役を果たすものである (後略)」

「子どもたちの諸感覚を目覚めさせる」実践、芸術としての美術を通じた教育研究の高揚が求められています。東京家政大学で10月14日(日)開催の〈第46回 日本美術教育研究発表会 2012: 参加費無料〉にお誘い合わせの上、多数のご参加をお願い申し上げます。

## 第46回 日本美術教育研究発表会 2012 案内

1. 期 日 2012(平成24)年10月14日(日) 午前9時30分受付~午後16時30分閉会予定

2. 会 場 東京家政大学 板橋キャンパス16号館 [〒157-8502 東京都板橋区加賀1-10-1]

□主催：公益社団法人 日本美術教育連合  
(InSEA-JAPAN)

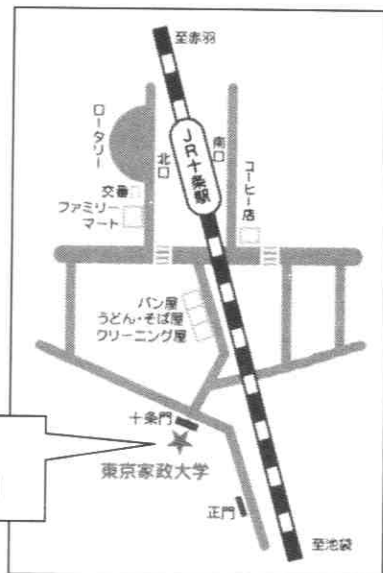
□後援：文部科学省

□開催日時：平成24(2012)年  
10月14日(日) 9時30分～16時30分

□会場：[http://www.tokyo-kasei.ac.jp/campus/guide/ca\\_itabashi.html](http://www.tokyo-kasei.ac.jp/campus/guide/ca_itabashi.html)  
東京家政大学板橋キャンパス 16号館 1階  
〒173-8602 東京都板橋区加賀 1-18-1

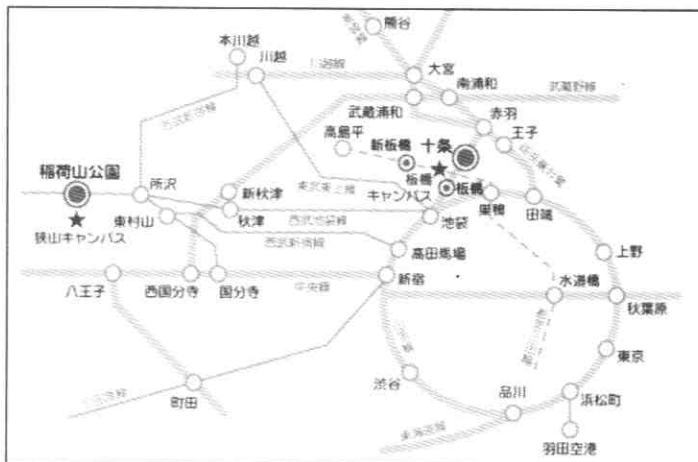
【重要】十条門入ってすぐ左が16号館、右がグラウンドです。

□アクセス：JR 埼京線十条駅下車徒歩5分  
JR 埼京線板橋駅下車徒歩17分  
都営三田線新板橋駅下車徒歩12分



## 案内図

★板橋キャンパス十条門から入場



□参加資格：会員以外の方でも参加できます。  
参加費は無料、事前申し込みも不要です。  
お誘い合わせの上、ご参加下さい。

□昼食：各自ご持参、または近隣食事処ご利用。

□問合せ先：研究局長 [事前・事後]  
山口喜雄 宇都宮大学  
TEL&FAX 028(649)5364  
[nobuoya@cc.utsunomiya-u.ac.jp](mailto:nobuoya@cc.utsunomiya-u.ac.jp)

# 第46回 日本美術教育研究発表会 2012

平成24(2012)年10月14日(日)  
主催 公益社団法人日本美術教育連合

会場 東京家政大学板橋キャンパス16号館  
後援 文部科学省

本部：162A教室 研究発表者控室：162B教室

9:30 9:45 9:55 (移動)	受付(当日、場所を1階に掲示します) 凡例：●DLP=データプロジェクター(HD-D-Sub15ピン対応)、 開会式(発表会場 A)		
	発表会場 A 161A 教室 (定員 80名)	発表会場 B 161B 教室 (定員 80名)	発表会場 C 161C 教室 (定員 80名)
10:00	『“Histoire des Arts” — 芸術史—』研究：序論	図画工作科にて児童が扱う水彩画用パレットのり・デザイン研究	ICT活用の可能性「教育実習生編、教育情報の共有化編」
10:25 (移動)	東京家政大学 A1 結城孝雄 ●DLP	玉川学園大学(非) B1 直井崇 ●DLP	熊本市立湖東中学校 C1 西尾隆一 ●DLP
10:30	テート美術館「アートへの扉」理論の検討(1) —西洋美術館におけるギャラリートークの相互行為分析を通して	身体感覚を活かした鑑賞活動についての考察	乳児期の造形教育とあそび
10:55 (移動)	聖徳大学 A2 奥村高明 ●DLP	東京学芸大学附属小金井小学校 B2 立川泰史 ●DLP	東京家政大学 C2 森田浩章 ●DLP
11:00	美術教育に適した評価方法の開発を通じた学力に関する基礎的研究(1) (副題：概要文を参照)	シュルレアリスムと鑑賞教育—マグリットの作品についての鑑賞授業実践	造形教育におけるICTの活用(1)
11:25 (移動)	聖徳大学/環太平洋大学/山梨大学 A3 奥村高明/村上尚徳/新野貴則 ●DLP	前・岩手県立黒沢尻工業高校 B3 山岸弘一郎 ●DLP	筑波大学附属小学校 C3 北川智久 ●DLP
11:30 11:45	研究発表者(全員)への諸連絡		
	[★昼食はご持参、または当日配布の近隣食事処等をご利用願います] 昼食・休憩 (11:25~13:00/95分間)		
13:00	森戸辰男の美術教育思想	行為を起点とした表現活動の可能性と今日的意義	外部機関との連携による図画工作の実践
13:25 (移動)	東京大学大学院 A4 遠藤信也 ●DLP	東洋大学 B4 北澤俊之 ●DLP	渋谷区立加計塚小学校 C4 藤崎典子 ●DLP
13:30	色彩の時間変化と色彩感情	子どもたちの創造的思考力を育てる工作	図画工作の授業づくりにおける専門性の有無による違いに関する考察
13:55 (移動)	佐賀市立昭栄中学校/中村学園大学 A5 姉川明子/姉川正紀 ●DLP	長岡造形大学(非) B5 佐藤真帆 ●DLP	宇都宮大学大学院 C5 多胡慎平 ●DLP
14:00	明治後期の幼稚園における描画作品の研究 —「第五回内国勧業博覧会記念帖」を対象として	戦後版画教育の源流 —炭やきものがたり連作版画集	美術表現から美術科教育研究への転換点
14:25 (移動)	東京都立大学 A6 牧野由理 ●DLP	和光大学(非) B6 江渡英之 ●DLP	宇都宮大学教育学部4年 C6 金子優人 ●DLP
14:30	休 憩 (14:25~/15分)		
14:40	戦後半世紀余の美術教育からみた今後の課題	空間認識の発達と言語力に関する一考察	
15:05 (移動)	福島大学 A7 天形健 ●DLP	埼玉県立越谷西特別支援学校 B7 小野恵 ●DLP	
15:10	戦後の美術科教科書における掲載作品の研究(14) —「情報化」と美術教育に関する考察	図画工作・美術科における観察画についての一考察	知的障害児における美術科授業でのコミュニケーション行動の分析
15:35 (移動)	宇都宮大学 A8 山口喜雄 ●DLP	桜の聖母学院中・高等学校 B8 相馬亮 ●DLP	筑波大学大学院 C8 森芸恵 ●DLP
15:40	近現代の美術概念と美術教育観 —モダンテクニックの受容とその応用を巡って	子どもの絵から読み取れること	小学校における生活科と図画工作科の関係性—低学年の造形あそびと生活科の考察
16:05 (移動)	宇都宮大学 A9 本田悟郎 ●DLP	(公社)日本美術教育連合理事長 B9 宮坂元裕 ●DLP	府中市立新町小学校 C9 竹谷摩維子 ●DLP

# 第46号 日本美術教育研究論集 2013

## 【 投稿および掲載要項 】

研究論集編集委員会

### 投 稿 要 項

- 投稿条件： 第46回日本美術教育研究発表会の研究発表者は、『第46号 研究論集 2013』に投稿できます。投稿論文の研究論集への掲載は、次の(1)～(5)の条件を全て満たしたものに限り、ます。
- (1) 投稿原稿が、研究発表会における発表内容と基本的に同じ内容であること。
  - (2) 投稿原稿が、研究論集の要項に適合して、書式・分量等が守られていること。
  - (3) 掲載料を期日(2012年11月15日)までに納入していること。
  - (4) 作品の図版や写真・VIDEO映像等の著作物を利用する場合および写真等の肖像権は、投稿者が必ず事前に著作権者・出版社・所有者・本人もしくは保護者等の許諾を得ること。  
引用文献には、脚注または本文中に発行所・出版年・該当頁等の出典を明記すること。
  - (5) 研究論集編集委員会において、投稿原稿の掲載が妥当と判断されること。
- 論文査読： A群(理論・実践研究論文)・B群(実践研究報告等)・C群(研究ノート)ともに複数の査読委員が査読を行い、編集委員会での審議を経て投稿原稿掲載の可否を決定します。掲載が決定した論文は、各主査がまとめて論評し、各論評を研究論集の〈論評の部〉に掲載します。
- 原稿書式： A群・B群・C群ともに、本文および図版(写真・表・図等)等、英文サマリー(A群のみ)を含め、下記の文字数を守って下さい。  
1頁分は、A4 横組 2段 23×44行×2段=2024字です。  
第1頁のみ第1行目から第5行目(2段取り)までに、題目(副題)・所属・氏名を記載し、本文との間に2行(2段取り)のスペースを空け、本文は、8行目から書き始めます。  
共通の項立て・見出しを用い、以下の番号と見出し語のみとします。  
大項目 1. 2. 3. [全角数字]…、中項目 (1) (2) (3)…、小項目 ① ② ③…。
- 掲載要項： A群・B群・C群ともに原則として8頁(C群のみ6頁も可)とし、  
掲載料は一般(給与を得ている内地留学生等を含む)は15,000円、院生・学生8,000円です。  
2頁増ごとに6,000円を加算し、10頁では一般21,000円、院生・学生14,000円です。  
増頁の上限は12頁で、一般27,000円、院生・学生20,000円です。  
原稿は、①ワープロ等で印字し、②テキスト形式で保存したCD-R等を含めて提出すること。  
CD-R等の未提出の場合は、一般・学生とも加工料込み30,000円です。  
カラーページは1頁につき12,500円を加算します。  
**掲載料は投函以前に納入し、送金の証明書(利用明細書のコピー等)を同封して下さい。**  
口座記号番号：00170-1- 86036(右寄せで記入) 郵便振込です。  
加入者名 (公社)日本美術教育連合  
ご依頼人 (〒)おところ・おなまえ・電話番号・所属  
通 信 欄 :例 掲載料15,000円(一般、8頁)+増頁分6,000円(2頁増の場合)=21,000円(計10頁)  
※査読の結果、掲載に至らない場合は10,000円(院生・学生は5,000円)のみ返金となります。

### (投稿原稿) 11/15(木) 必着

- 投稿〆切： 2012(平成24)年11月15日(木)必着。A群・B群・C群とも、  
①正1部と副4部(コピー可)計5部、②原稿CD-R等、③送金証明書を提出して下さい。  
投稿原稿は、完全原稿とし、締め切り期日以降の差し替え・変更は認めません。  
ただし、研究論集編集委員会が修正を求めるときは、この限りではありません。  
なお、発行日は2013(平成25)年3月31日を予定しています。
- 送付先： 〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1 筑波大学附属小学校内  
公益社団法人日本美術教育連合 研究論集編集委員会 宛

## 全米美術教育学会 (NAEA) 会長

### ロバート・セイボル博士来日講演会のお知らせ (最終案内)



#### 開催趣旨と講演テーマ

全米美術教育学会 (National Art Education Association. 略称NAEA) は、アメリカ合衆国唯一の美術教育団体であり、会員数 17550 人を誇る世界最大規模の団体です。ロバート・セイボル博士はその会長です。

(詳しくはNAEA ホームページを参照ください。 <http://www.arteducators.org>)

この度、日本美術教育連合が公益社団法人に認定されたことを記念し、セイボル博士を招聘し講演会を開催することになりました。また、今回の講演についてはそのテーマから、本連合と芸術教育文献アーカイビング研究会の共催により開催することになりました。

講演テーマは、芸術教育文献アーカイビングのアメリカにおける現状と、現在改訂されている芸術教育カリキュラムの全米スタンダード、21 世紀型の芸術教育の学力などが中心になる予定です。

入場無料でどなたでも参加できます。ぜひご参加ください。

#### 日時 2012 年 11 月 4 日 (日) 12 時～14 時

セイボル先生帰国の都合で第一次案内の開始時刻が変更されています。ご注意ください。  
11 時 30 分より入場を開始します。

#### 会場 東京国立近代美術館講堂 (<http://www.momat.go.jp/>)

地下鉄東西線竹橋下車、1b 出口から竹橋を渡る。美術館正面を左に回った奥の地下。

当日の連絡先 携帯電話 090-5515-2725 (宮坂)

**共催** ・公益社団法人 日本美術教育連合(理事長/宮坂元裕)

・芸術教育文献アーカイビング研究会

本年度から理事会議事録を、全会員に報告することにしました。今回は第1回、第2回を公開します。

## 公益社団法人 日本美術教育連合 第2期 第1回 議事録

1. 開催日時 平成24年6月24日(日) 午後1時30分～4時30分

1. 開催場所 筑波大学附属小学校工作室

### 1. 議事の経過の要領及び議案別議決の結果

定款の規定による互選により理事宮坂元裕が議長に就任した。

代表理事宮坂元裕は議事に先立ち、第2期の基本方針を述べた。

- 1 会員相互の交流をメールなどの活用により活性化を図る。
- 2 新しい企画は小規模で開始し、会員の意見を取り入れながら企画の拡大を図る。
- 3 改革は大胆に行う。

以上

その後、直ちに議案の審議に入った。

### 第1号議案 運営委員の任命と役割分担

代表理事より次のような提案があった。(あいうえお順)

国際局	大坪圭輔(理事)	仲瀬律久	長田謙一	林 耕史	福本謙一	茂木一司
研究局	山口喜雄(理事)	天形 健	小林貴史	服部鋼資	山田一美	結城孝雄
事業局	水島尚喜(理事)	石崎和宏	榎原弘二郎	奥村高明	西村徳行(事務局長兼任)	
		橋本光明	藤崎典子			

上記案について慎重審議した結果、第1号議案は全員一致をもって可決決定された。

### 第2号議案 各局の2年間の運営方針について各局担当理事より提案があった。

国際局(大坪理事) 次期InSEAアジア地区評議員に茂木一司氏を推薦したい。また、国内の情報、特に優れた論文を英訳しInSEAニュースに投稿したい。

東アジア各国の美術教育団体との交流も考えたい。

研究局(山口理事) 結城運営委員の努力により日本教育研究発表会の会場と日程を

東京家政大学板橋キャンパスにおいて2012年10月14日(日)としたい。

内容の改善については、本日第3号議案で検討する。

外国から講師を招聘して研究会を開催する件については、アメリカ合衆国NAEA新会長セイボル博士に候補者を絞り、広島大学の中村和世氏に交渉を依頼し進行中である。

事業局(水島理事) 新企画「鑑賞教育講習会」の原案が出された。内容については、本日第4号議案で検討する。

上記案について慎重審議した結果、第2号議案は全員一致をもって可決決定された。

### 第3号議案 日本美術教育研究発表会の改善について

山口理事より提案理由の説明があった。昨年度、この研究発表会について内容の改善を求める投書が2通あり、「1 授業実践発表の減少 2 発表時間が短く質疑応答が不十分 3 発表者の減少と固定化」の上記3点について慎重審議が行われ「モジュール化」「ポスターセッション」等のアイデアが提案された。それらの実現に向けて研究局内で具体策を練り、後ほどメールなどで公表することが提案され、第3号議案は全員一致をもって可決決定された。

### 第4号議案 事業局「新企画」の提案があり慎重審議の結果、試行錯誤的に事業を行いながら、



## 公益社団法人 日本美術教育連合 第2期 第2回 議事録

1. 開催日時 平成24年9月2日（日）午前11時0分～午後4時30分

1. 開催場所 筑波大学附属小学校工作室

1. 議事の経過の要領及び議案別議決の結果

定款の規定により理事宮坂元裕が議長に就任し、直ちに議案の審議に入った。

**第1号議案** 第46回日本美術教育研究発表会2012運営要項（案）について

山口喜雄理事より平成24年10月14日開催の第46回日本美術教育研究会2012には27件研究発表応募があり、その件について山口喜雄理事が運営委員長を兼務するとの提案があり、全員一致をもって可決決定された。

続いて当日のプログラム案を協議し、第一回会議に出された60分モジュール及びポスターセッションは10月14日に会員に説明し、理解を深めたのち来年度から実施する旨提案があり、検討の結果、全員一致をもって可決決定された。

続いて当日の役員の分担について協議の結果、全員一致をもって可決決定された。

続いて論文査読者の分担について協議の結果、全員一致をもって可決決定された。

**第2号議案** 全米美術教育学会会長ロバート・セイボル博士来日講演会について

大坪圭輔理事よりセイボル博士招聘経過についての報告があり、広島大学、中村和世氏(本連合会員)の全面的協力を得て開催に至った旨の報告をもとに、開催日時平成24年11月4日12時～14時、東京国立近代美術館講堂を会場として開催したい旨の提案があった。

以上、提案について慎重審議の結果、全員一致をもって可決決定した。

**第3号議案** (仮称)「子どもの鑑賞力養成講座」開催について

水島尚喜理事より(仮称)「子どもの鑑賞力養成講座」の説明があり、運営委員会において大幅な修正を行う可能性があるので事業部会に一任する旨全員一致をもって可決決定した。

**第4号議案** InSEA委員推薦について

大坪理事より、公益社団法人日本美術教育連合から群馬大学教授 茂木一司氏を次期候補として推薦したい旨、再度提案があり、協議の結果、全員一致をもって再可決決定をした。

**第5号議案** (仮称)芸術教育コロキウムに共催団体として参加する件について

首都大学東京教授 長田謙一氏主催の平成24年11月18日東京都美術館で開催される(仮称)「芸術教育コロキウム」に共催団体として加盟する件につき(公社)日本美術教育連合会員が登壇するという条件を付けて共催を可決決定した。

以上をもって議案の全てを終了したので、議長は閉会の挨拶を述べ、午前4時30分解散した。

# 事務局だより

## 1. 第46回日本美術教育研究発表会 開催迫る！

10月14日(日)に行われる、第46回日本美術教育研究発表会(文部科学省後援)が東京都板橋区加賀の東京家政大学板橋キャンパスにて開催されます。詳しくは前掲のご案内をご参照ください。本年度は26件の研究発表が予定されています。広く日常的な実践のなかで児童生徒の姿をもとに紡がれた報告から、理論的・歴史的背景など科学的な精査から組み立てられた研究まで、多彩な発表が展開されることが期待されます。本会は参加費無料の開かれた発表会です。連合の会員の皆様はもちろん、研究関係諸氏、同僚や学生のみなさんに大いにご参加いただきたいと思ひます。

### ■発表者・参加者の皆様へお願い

#### (1) 発表者の皆様へ

- ・一人あたりの持ち時間は25分です。発表時間20分、協議時間5分ということで時間配分をお願いします。機器類の準備点検などで時間不足にならないように、事前の確認をよろしくお祈ひします。
- ・発表資料を配布される方は、50部程度ご用意ください。
- ・液晶プロジェクターを使用される方は、各自でパソコンとケーブルをご用意ください。  
午前の部終了直後11:30より「研究論集」執筆関係の連絡などいたしますので、忘れずにご参加ください。

#### (2) 発表者・参加者の皆様へ

- ・昼食につきましては、お弁当などをご持参なさるか、近隣の食事処をご利用ください。

### ■懇親会のご案内

研究発表会終了後、ご参会の皆様で懇親会をもちたいと思ひます。下記のように計画しておりますので、会員の皆様はもちろん一般の参加者の皆様も一緒に、情報交換や懇親の機会にしましょう。

*時間	研究発表会終了後 16:30より (17:45終了予定)
*会場	研究発表会場近隣にて(当日連絡)
*会費	3,000円

## 2. 平成24年度(2012年度)会費納入のお願い

会費未納の皆様は、下記まで **年会費 6,000円** を郵便振替にて納入してください。

(公社)日本美術教育連合 郵便振替00170-1-86036

※期限が過ぎておりますので、お早めに納入してください。※

※インターネットバンキングでもお支払いいただけます※

\*同封の振り込み用紙をご利用ください。(手数料はご負担ください。)

お名前を記載した振込用紙に、納入済みの方は○、未納の方は一が、不足の方は△が印字されています。ご確認ください。

\*第2回通常総会において、年会費及び論文掲載費の改訂が全員一致を持って可決決定されました。つきましては、本年度より年会費を6000円とさせていただきます。すでに本年度以降の年会費をご入金いただいている方は、誠に申し訳ございませんが、差額をあらためてご入金いただきますようよろしくお祈ひいたします。(振込用紙に差額を記載いたします。)

\*平成19年度より会費の納入をお願いしておりますが、会員の皆様からの納入状況は決してよくありません。今一度、会員の意識にたち、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

### ▲3年以上の会費未納の皆様へ

\*平成23年度から、過去3年以上、会費未納の方につきましては、今回ご入金いただけない場合、「除名」という対応をとらざるを得ません。納入にご協力ください。